

試験対策にいそしむ学生への熱いメッセージ!!

- 君は、今何を考え、何をすべきなのか編 -

みなさん、こんにちは。試験が近づきつつあり、なかなかどうしたと思いつつ、さぞ日々物思いに耽っていることでしょう。さて唐突ですが、現在、駒場寮問題は非常に重大な局面を迎えようとしていることをご存じでしょうか？東京地方裁判所で、これまで審理されてきた駒場寮の「明け渡し」訴訟について、今年度末にも判決が下されようとしているのです。しかし駒場寮問題を巡って、学生投票(強行的な「廃寮」計画をいったん取りやめ、学生との合意に基づくキャンパス作りを行うよう求めるもの)が行われ、57%の賛成で批准され、学生の総意が大きく示されたことにより、学内での解決を求める声が、依然として大きいことがはっきりしました。また、先日の証人尋問(成瀬元寮委員長、須藤元寮委員長、永野学部長特別

補佐の計3人が証言)でも、貴重な発言(別の資料を参考にされたし)が多くあり、これらをふまえた上での、駒場寮「廃寮」計画の再検討が必要不可欠です。私たちはこのように重要な時期であるまさに今、この駒場寮問題の本質を明らかにしたいと思います。それとともに、どの様に解決を目指していくべきか、またそのためには、何が求められているのかについて以下に述べたいと思います。参考までにいろいろな資料を載せていますので、あしからずです。

我々は、駒場寮問題に関して学内での話し合いによる解決を切に求めています。そのために、先日、教養学部のドンである浅野攝朗学部長に対して、話し合いの場を持つようを学生自治会と共同で申し入れました。しかし、その我々の話し合いのテーブルについてくれという切実な要求は、「駒場寮問題は三鷹特別委員会に任せてある。そことやってくれ」という、口頭での回答にて一蹴されました。つまり

学部長交渉は拒否された

というのは、このその場しのぎの回答などでは、なぜ学生投票の結果を受けた交渉に応じてくれないのか、そもそも学生投票に対してどの様な見解を持っているのか等の疑問に答える誠意のある対応をとっているとは、とても呼べるものではありません。

んでした。

これまで駒場寮問題は重要な局面に於いて、何度か学部長交渉が行われてきました(94年、蓮見重彦学部長、95・96年、市村宗武学部長)。確認しておく、95年2月の学部長交渉の場では、市村学部長が、「96年4月以降も、(学部としては駒場寮自治会を正式には認められないにせよ)寮に住んでいる人たちの団体との話し合いには応じる」と明言しています。また、東大確認書でも、「右の自治組織(各学部の学生自治会など)の団体交渉権を認める方向で、その交渉要求に誠意を持って応じる」と明記されています。だいたい、寮問題は三鷹特別委に任せてあるといいながら、なぜ東大新聞で、公式見解を行えるのでしょうか？その東大新聞の内容は、「三鷹宿舍の建設と駒場寮「廃寮」はセットのものだから、どうしようもないよね。」というものです。これだけで判

東大は
生き残れるか



断すれば、「なるほど、じゃあ、(駒場寮の「廃寮」は)仕方がない」と思う人もいるでしょう。しかし問題はそう簡単なものではありません。学部長の見解(先日の永野学部長特別補佐の証人尋問でも同じ様な内容が証言された)に対して、色々説明しつつ、手短かに問題の本質を明らかにしたいと思います。

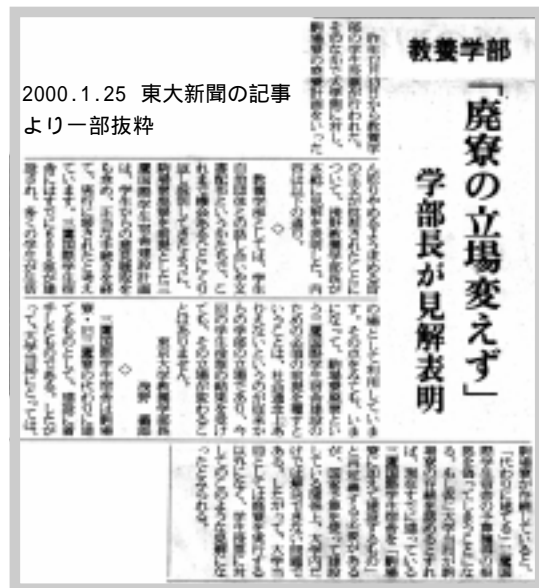
大蔵省から旧三鷹寮の敷地の非効率性が指摘され(88年)学部長室周辺で秘密裏(この時点

永野三郎学部長特別補佐の証人尋問での証言より(抜粋)

【駒場寮はもう誰も住んでいない?】(駒場寮では現在も、多数の学生が学生生活を送っているという事実について質問されて)「いいえ、それは知りません。」

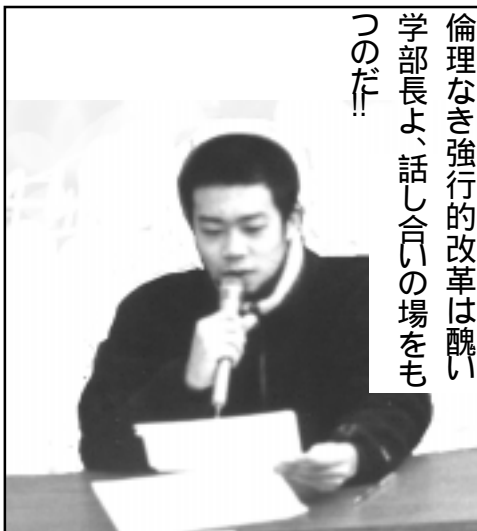
【都合が悪くなると「わかりません」と責任逃れ】(概算要求は重い意味があるのだから、その時点で学生の意見を聞くべきだったのでは、との質問に)「それは無理。概算要求は一般に秘密事項。」(続いて、実際に概算要求前に学生の意見を聞いている『学生会館建てかえ』と同様に、三鷹計画では進めなかったのはなぜか、と問われ)「私は当時、執行部ではないからわからない。」

【不透明なガードマン費用】(ガードマン費用はどこがもっているのかとの問いに)「東大全体がもっている。(いくらかかっているのか、との質問に)「私は知る立場にない。聞きたくもない。」



で廃寮計画はないと断言している)に計画を練り関係省庁と密室交渉を進めて、9年10月の臨時教授会で突然駒場寮の「廃寮」が決定されました(この間2年、学内で話し合いを持つ十分な時間はあった)。それ以後、寮生・学生の意見は十分聞き入れたといいながら、実際は「廃寮」決定以前は、まだ計画が具体的にないで、寮生にいちいち相談などできなかった。また決定以降は、せっかく予算(駒場寮「廃寮」を前提とした三鷹宿舍の新設予算)がとれたので、どうしようもない。」と、先日の証人尋問の場で永野教官は証言しました。「どうしようもないのはこっち(寮生)だよ。」と、その場で傍聴していて怒りにふるえたものです。三鷹宿舍建設をやるか、そうでなければ、駒場寮は「廃寮」だ、なんと、まあ、あまりにひどい二者択一しが「提示」されなかつたのです。学生・教官・職員という大学の主体構成員それぞれのどの意見を無視しても、よりよい学内自治は作り上げられません。文部省の言いなりに成り下がるのではなく、学生と色々対話し、その意見を最大限生かすことで、学内の民主主義、学内の自治というものが、創り出されるのではないのでしょうか。これが、ずっと以前から寮生・学生が問うてきたことです。

この寮生・学生の問いかけに学部当局は何をもって答えてきたのでしょうか。



倫理なき強行的改革は醜い
学部長よ、話し合いの場をも
つのだ!!

「文部省との間で決められたことは変えられない」と繰り返す形だけの交渉、「駒場寮は非効率だ、駒場寮は一部の怪しい人々が占拠している、立ち入ることすら違法だ」と無垢な学生への必至

の情宣、寮をつぶすために電気ガス停止・大量のガードマン導入などどんなことでもやる不当な姿勢、挙げ句の果てには、寮生を追い出すために裁判に訴え、「学内の決めごとには何の法的拘束力などない、寮は国の持ち物だから、国の意向には逆らうな」と大学自治を完全に蔑ろにする意見が堂々と出る非道いありさま...

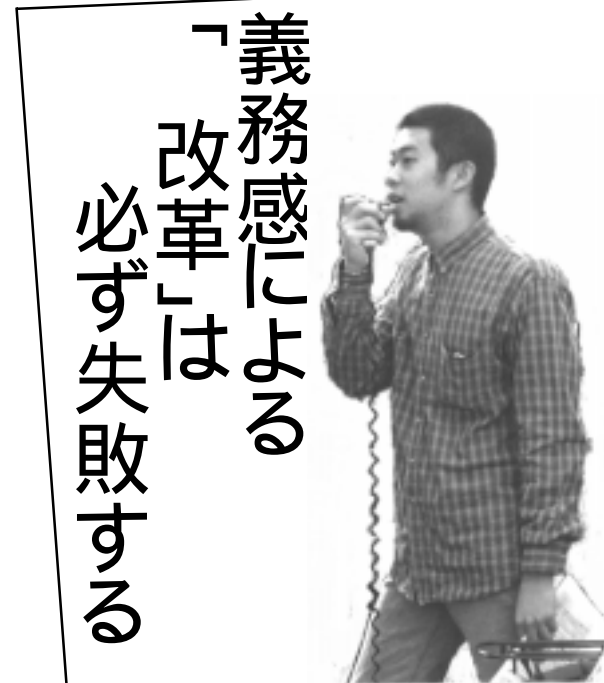
駒場寮は教育の機会均等保障の役割を果たしつつづけてきています。実際、この厳しい状況の中(以上に挙げたような、当局の寮をなんとしてもつぶさそうとしている状況)で、100人以上の東大生が寮を必要としています。寮がなければ学生を続けられないという人は多くいるのです。しかし、この主張に対して学部は次のような見解でいるのです。一基本的に少数にすぎない貧乏学生の要求は、社会の流れからいっても、そのまま認めるわけにはいかない。この理屈が分からない寮生の主張は単なるわがまま・甘えだー。というものです。教育の機会均等という重要な問題を社会の「流れ」なるもので、簡単に判断できるものであるはずがありません。そもそも我々寮生の主張してきたことは、教育の機会均等の保障という主張ではありません。それだけが問題であるならば、三鷹特別委による奨学金創設の提案を受け入れて妥協することもできたはず。先にも述べたように、なぜ三鷹寮の建て替えと引き替えに駒場寮を犠牲にするような約束を文部省と確約したのか、なぜ事前協議なしに教授会で一方的に廃寮を決定したのか、より具体的にいえば、予算獲得のために文部省の言いなりになるのではなく文部省の自治寮つぶしの政策に学部当局はきちんとした理性で抵抗すべきではなかったのか、という主張をしてきたのです。

さらに駒場寮は学内自治寮として学生の自主自治活動維持発展の場としての役割を長年にわたって果たしてきました。すべての事柄に対して自分の意志を反映させる権利が保障されていて、すべてのことを自分たち自らで作りに上げていく、という自主自治活動を通じて、福利厚生施設としての役割を超え、たかだか20歳程度の「学生」たちは、自分の意見を実現させるために試行錯誤し、他人に自分の考えを伝えることの難しさに打ちひしがれ、幅広い人間関係(寮生にはいろんな人がいる)にもみつもまれながら、いろんなことを吸収し、精神的にも肉体的にもたくましくなっていく。とまあ、何がしたいのか分からないけども、こういった寮の果たす役割は一般化しづらいし、文章化するのが難しい(僕だけか?)のです。それ故に、このような機能は、それに実際に関わらない外からの目ではなかなか納得・理解しがたいかもしれません。しかしそうであればこそ、仮に駒場寮の「廃寮」を検討するにしても、それが果たしてきた役割/果たしている役割について、身をもって体験している当事者を交えた議論が必要不可欠なはず。独立行政法人化の波にさらされている現在の大学の状況に置いて、みなさん一人

ひとりに一大学人としての自覚が真剣に問われているときです。大学は産業界の下請け機関と成り下がってしまうのか、大学の研究教育理念はどういったものなのか、それは目の利益で語り得るものなのか、大学は社会と如何なる関係を結ぶべきか、大学の自治を如何に実効あるものにしていくか、等といった原理的な問いに対して真摯に向き合い、全学的に討議を重ね、問題を一つ一つ解決していくことが、少なくとも当事者である我々学生には義務とさえ呼べることではないでしょうか。

私たちは引き続き、学部長に対して話し合いの場を持つよう求めていく次第でございます。

ここまで読んで下さって、誠に有難ございました。



「義務感による
改革」は
必ず失敗する

読み終わったビラは持ち帰りましょう
駒場寮委員会 tel 03-3467-7258